２０２４年１２月吉日

青い目の人形 100 年　平和サミット（仮称）開催における趣意書

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会
理事長　大 場　隆 志

拝啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素から公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会に対し格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
おかげさまで、当団体は今年で６０周年を迎えることができました。
これもひとえに皆様のご支援、ご鞭撻の賜物と心より感謝申し上げます。
　さて、「青い目の人形」を、ご存知でしょうか。
約１００年前の話です。平和を願い、心と心をつなぐ人形がありました。
その頃、世界には戦争の危機が高まり、日本とアメリカも敵の国となり、戦争が始まるかもしれませんでした。そのようなときにアメリカから日本の子どもたちに、たくさんの「青い目の人形」が贈られたのです。その人形は、日本各地の小学校や幼稚園に届けられました。
子どもたちは大喜びで「青い目の人形」と呼んで、仲良しのお友だちになりました。
敵国として戦争になるかもしれないアメリカにも、「青い目の人形」のような子どもたちが大勢いるのだと思いました。「青い目の人形」は、知らない国の子どもたちとの心と心をつなぐ平和の使節でした。
しかしながら、国と国は戦争となり、敵の国から贈られた「青い目の人形」は捨てさせられました。
子どもたちにとって、よく分からない悲しい出来事でした。
歌にもなって、子どもたちに愛された「青い目の人形」は、日本の世の中から消されてしまいました。
やがて戦争が終わり、年月が経ち、「青い目の人形」の話は、みんなが忘れたようですが、人形が贈られてから１００年となる今、「青い目の人形」は、いくつもが大事に隠され守られて生き残っていることがわかりました。全部が捨てられたり、燃やされたりはしていなかったのです。
そっと隠れて、戦争の間も密かに守られていたのです。
　１００年、生き残り守られた「青い目の人形」という平和の使節に、今一度、出会いませんか。
世界の戦争が終わりなく続き、多くの子どもたちの未来が奪われていく、今だからこそ。
　１９２７年に、日本とアメリカの子どもたちの間で始まった「青い目の人形」交流は、国境を越えた友情と平和の象徴として、今なお多くの人々の心に刻まれています。
この歴史的交流が１００年を迎えるにあたり、私たちは「青い目の人形１００年 平和サミット」（仮称）をインターネット上で開催し、広く世の中に発信していきます。
本趣意書では、本サミットの開催趣旨、目的や意義についてご説明させていただきます。
　つきましては、誠に恐縮ではございますが、是非ともこの趣旨にご理解、ご賛同いただき、格別のご支援を賜りますようにお願い申し上げます。

敬具

■ 開催趣旨

「青い目の人形１００年・平和サミット」（仮称）とは、「青い目の人形」１００周年（２０２７年）をテーマとする各種催事や活動計画が、各地自治体、事業体で着手されていますが、その多岐にわたる企画が、それぞれ単体のイベントで終わるのではなく、その目的、意義の共通項を接点に、各企画・活動が「青い目の人形」の大きなテーマの傘の中で連携し、発信力を大きく高め、広く関心を集め、メッセージが受け取られ、認知されて各企画への賛同の行動へと誘引できることを目指すものです。

「青い目の人形１００年・平和サミット」（仮称）の活動を実現、構築へと推進するための準備事務局としてのサポートは、「公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会」内に設置します。

公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会とは、「劇団すぎのこ」が前身で、創立者の小澤明は、長兄小澤鉄造が主宰するＮＨＫ専属「劇団やまいも」で、ＮＨＫテレビ実験放送時代から「アシンと１３人の盗賊」「魔法のじゅうたん」「ものしり博士」「ガンツ君」等の主役人形を遣い、６０年前に８年間続いたテレビ人形劇「チロリン村とくるみの木」の放送終了を機に、テレビでは決して味わう事の出来ない「ナマの舞台の感動を、どんな離島山間僻地にも届けよう…！」とテレビ人形劇と決別し、創立された劇団で、これまで６０年間に全国の幼稚園保育園児童館等で延べ９００万人以上、１８００万以上の瞳にナマの舞台を届けてきた団体です。

子どもの頃、心に残る人形と劇的に出会った感動は、心の中に植えられた一粒の種のように、その後の人生で心の中に花を咲かせます。

長年の人形劇団としての地道な活動は、評価され、支援され、現在では「公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会」と発展成長し、一貫した活動を継続しています。人形劇を通した国際文化交流も長年続け、アジア各国から人形劇の日本招聘公演、日本からの海外公演等も重ねる傍ら、今なお反日教育を続ける中国や韓国の子ども達と日本の子ども達が、同じ釜の飯を食う…キャンプ生活「国際わんぱくクラブ」を日中韓で開催するなど、子ども同士の国際交流活動も続けてきました。

その「心と心をつなぐ人形」をテーマに活動している「公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会」が仮の準備事務局を務めさせていただきます。

公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会
「青い目の人形１００年・平和サミット」事務局

住　所：〒171-0022 東京都豊島区南池袋４-１９-６ 日の出ビル２F
電　話：０３－３９８４－２３９６
ＦＡＸ：０３－３９８４－２２６４
メール：support@suginoko.org
担　当：大場隆志、堀合真佐人、岩井朱美

■ 目的と意義

１、戦争と平和における歴史の再認識と共有

　１９２７年に始まった青い目の人形プロジェクトは、子どもたちを通して日米間の友情と平和を築こうとしたものでした。友好の象徴ではあったものの、戦争により多くの人形が破壊されました。これは、友情が戦争によって断ち切られることもあるという教訓を含んでいます。　サミットでは平和を守り、争いを避けるための対話を行い、友好の大切さを改めて再確認し、１００年の時を経て、サミットではこのプロジェクトの背景や当時の人々の思いを後世に伝えていく意義を共有します。

２、国際交流と文化交流の推進

　サミットは、日米にとどまらず、他国からの参加も促し、世界的な友情を築く場として実施されることを目指します。異文化理解を深め、違いを超えた友好を育むことが、グローバル社会においてますます重要である事と理解します。そして世界中の子どもたちが友情と相互理解を深めるきっかけを提供します。

３、未来への行動とメッセージ

　青い目の人形は、子どもたちに希望と友情のメッセージを伝えるために贈られました。サミットでは、１００年後の現在もそのメッセージが有効であることを確認し、次世代への平和のメッセージとして受け継いでいく意義を示します。平和と国際交流の重要性を再認識し、次世代に向けた新たな平和の取り組みを提案します。

■ 開催内容

１、現存する人形の展示

展示テーマとしては、人形の歴史、日米関係における人形の役割、生き残った人形のエピソード。写真や歴史的資料の公開。人形にゆかりのある人々の体験談など。

青い目の人形とアメリカに送られた日本の人形の両方について情報を集めて展示し、二国間の文化的なつながり示します。

２、教育ワークショップ

青い目の人形について学び、国際的な友情の大切さを学ぶためのワークショップを開催。内容には、人形作り、日本の学生と各国の学生の手紙交換、世界平和を考えることなどを取り入れます。また、人形の調査を行った歴史家の方を招いた講演や、青い目の人形交流を発案実践されたシドニー・ギュリック博士や、その日本側受入窓口をかってでた渋沢栄一先生など、交流に尽力された人物についても学ぶ機会になればと考えます。

３、文化公演

青い目の人形をテーマとした人形劇作品を公演（各国の劇団が参加）

青い目の人形の歌を合唱団や音楽グループにて演奏

（日本、アメリカ、その他の国の子どもたちによるバーチャルコンサート）

４、１００年目の世界人形交流とオンラインイベント

小さくても意味のある人形が象徴する国際的な友情の精神を受け継ぎ、１００年目を記念して世界各国との人形交換イベントを実施します。

歴史を紹介するバーチャルツアーや、各国の参加者を繋いだオンラインイベントなどを開催。

人形ではなく、平和のメッセージやデジタルペンパルなどの交換を奨励し、青い目の人形交換からの友情の精神を現代につなげる取り組みを実施します。

５、世界平和祈念

①世界的な認知度と信頼性を高めるために、ユネスコとのパートナーシップによる「平和の文化」プログラムなどの承認を得ることを目指す。

② 記念書籍やパンフレットの出版で、国際協力と友情の重要性を新しい世代に残す。

③ 平和祈念のオリジナル友情人形を制作し、各国との人形交換活動につなげる。
（平和の大切さを話す人形など）

④「100 Years of Friendship」として、青い目の人形に関するストーリー、アート、パフォーマンスをソーシャルメディアで共有。（ハッシュタグを付けて自分の活動を投稿）

⑤「平和のための世界宣言」として世界中からの参加者が「友好と平和宣言」に署名。